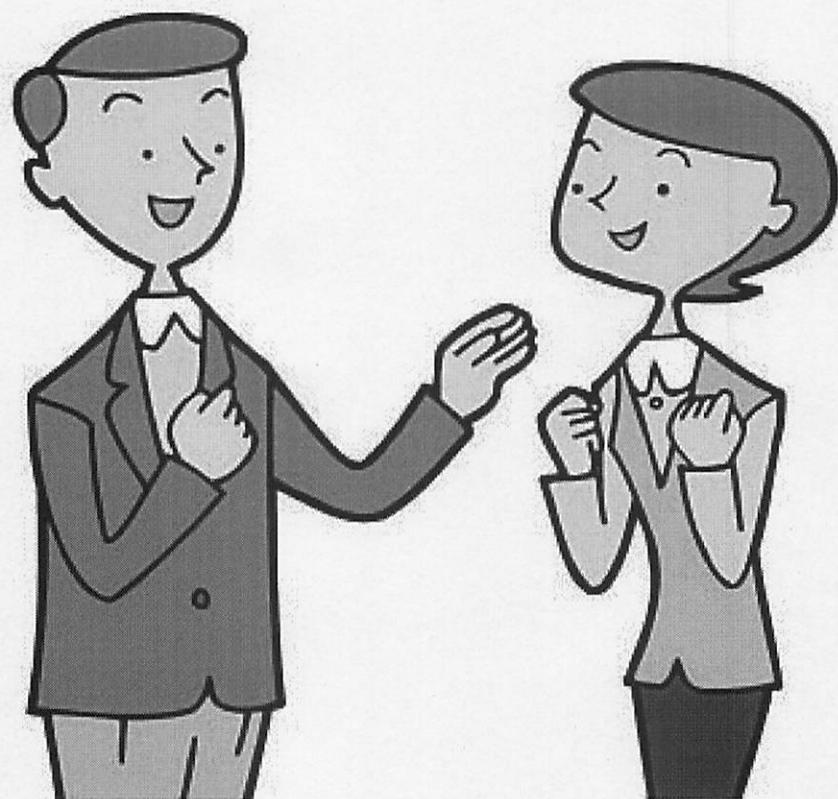


【学び合い・意見交流】



わかった、できたという喜びのある算数授業

～筋道立てて考えたり、自分の考えを表現したりする力を育成するための指導の在り方～

共栄小学校 上條 和佳子

1 授業改善の視点

- ・ わかったことを実感できる全体交流の聞き方・話し方

2 具体的な実践

(1) 話し方・聞き方の段階表の活用

本校では、昨年度、「算数的表現力の表」を作成した。この表は、算数の時間に身に付けさせたい表現方法をまとめたものである。(資料①) 今年度も、この表を活用して指導を続け、算数の授業改善に取り組んでいる。

7月に行われた全校研究会では、次のような児童の姿が見られた。

<6年生「速さ」の单元より>
考え方の根拠となる数直線や公式を示しながら話すことができた。

「数直線を使って考えました。今回は、(数直線を指差しながら)速さと道のりが分かっていて、時間が分かりません。」

根拠がはっきりしているかどうか、注意しながら聞くことができた。

「数直線までは同じだけど、いきなり6が出てきたのでそこが分かりません。」

(2) ハンドサインを活用した挙手発言

本校では、相手の考えを理解できたときや自分の考えと似ているときは1本指、付け足しは2本指というハンドサインを使っている。ハンドサインを使うことで、自分の考えと比べて聞く力を身に付けさせたいと考えている。また、話し

手が、その反応を見ながら話すことできの考えが深まるように指導している。

7月の全校研究会では、もう1度説明してほしいときは3本指というハンドサインを加えて全体交流を行った。すると、次のような姿が見られた。

<6年生「速さ」の单元より>
全体交流において、根拠が曖昧な部分をそのままにせず、仲間の考えをより深く説明したり、違う視点で説明したりすることができた。

「道のり÷速さをすると、 $480 \div 80 = 6$ になると思います。」

(複数児童が3本指のハンドサイン)

「公式1を使って考えました。時間はまだ分かっていないので、□です。…」

「別の考え方です。私は、割合の考え方で説明します。…」

3 実践を振り返って考えられること

「算数的表現力の表」を活用することで、身に付けさせたい話す力・聞く力がより明確になった。今後も継続して活用すると共に、児童の実態に応じて改善していく必要がある。

また、ハンドサインについては、今年度新たに加わったハンドサインを含めて活用し、自分の考えと比べて聞く力をしっかりと身に付けさせたい。

これらのことの大切にし、全体交流が学び合いの場となり、児童にとって「わかった」を実感できる場となるように今後も指導していきたい。

資料① 算数的表現力の表

各学年における算数的表現力				
段	違う姿	低学年	中学年	高学年
つかむ	問題理解を経て、本題の字面で明らかにしたいことをつかむことができる。	<p>○問題文を読み、「分かっていること」に実験、「たずねていること」に操作、問題を引く。 ○「前と違う所」「同じ所」を見つけ、問題を記述する。</p>	<p>○問題文を読み、「分かっていること」に質問、「たずねていること」に実験。 ○問題を理解してとらえる。 ○「前と違う所」「同じ所」を見つけ、問題を把握する。 ○問題を理解してとらえる。</p>	<p>○問題文を読み、「分かっていること」に実験、「たずねていること」に実験。 ○「前と違う所」「同じ所」を見つける。 ○「前と違う所」「同じ所」を見つけ、問題を把握する。</p>
見通す考え方	既習内容をちらりと見通しながら、自分の考え方を用いて操作ができる。	<p>○問題画面をブロックやおはじき、枚えん等の具体例に置き換えて操作し、自分の考え方をもつ。</p>	<p>○問題画面を、枚えん、テープ図、線分図、丸図等に置き換える。 ○既習内容や操作、図などに順序立てて考え方、操作の仕方や考え方を文書で聞く。 (筆記書き、図に書き込みや記号で)</p>	<p>○問題画面を、枚えんや直線図等に表して考える。 ○既習内容や図をもとに、考え方の根拠を明確にする。図の中に言葉や記号を補いながら、自分の考え方をまとめる。 ○専用語を使って書く。</p>
高まる	操作を明確にしながら順序よく自分の考え方を説明することができる。	<p>○問題画面をブロックなどで操作しながら、「始めに～、次に～、だから～、」と順に説く。(1年時ブロック、2年時テープ図) ○式や図を用しながら「～になりました。われは～だからです。」と説明する。 ○式や図を用しながら「～ですね。」と(仲間の)反応を確かめながら話す。</p>	<p>○図や式を指し示しながら操作を明確にして順序よく説く。 「～を買って考えました。」「～をもとにして考えました。」「こここの部分は何かといふと～。」 ○図や式を指し示しながら「ここまでいいですか。」等、自分の考え方が伝わっているか確認しながら話す。</p>	<p>○自分の考え方の根拠となる図や式を示しながら順序よく説く。(キーワードを入れて) 「～をしたのは、～の方法が使えるので…」 ○式の示すものは何か(意味)を明確にして話す。 「式のここが+2になるのは～だからです。」 ○式や図と式をつなげて説く。 「問題の～という部分を図に接すと～になるから、式は…」 (仲間の反応を確かめながら) 「ここまでで解説はありますか？」</p>
	仲間の考え方、自分の考え方と比べながら聞くことができる。	<p>○操作と式や考え方を結びつけながら、自分がはっきりしているか聞く。 「私と同じやり方で、わけがはっきりしているな。」「ちょっと違う所があるな。そのやり方だとわけがはっきりしていないな。」「私と違うな。どうしてそうなるのかわが分かりたいな。」</p>	<p>○図や式、考え方を結びつけながら聞き、相手の考え方の根拠をつかむ。 「～をもとにして考えているんだね。」「この式を式にするところなるんだな。」「自分の考え方との共通点や違いに気付く。「式は同じだけど、図が違うな。どんな考え方をしたのがな。」「図を使って考えていたけど、枚えん等が分かりやすかった。」</p>	<p>○相手がはっきりしているかどうか、注意しながら聞く。 「この式の+2の部分は、どういう意味だろ」「なぜ、このような式になるんだろう」 ○自分の方法との違いや共通する部分を見つけるから聞く。 「ここまででは同じだけど、どうしてそのような式になるのだろう。」「式は違うけど、考え方は同じだ。」</p>
	仲間と積極的に交流することを通して、自分の考え方をより豊かなものにしていくことができる。	<p>○操作や考え方など、同じ所、似ている所、違う所を示して、わけをはっきりさせて自分の考え方を語る。 「～さんと同じで」「似ていて」「～さんとちょっと違って」「～さんのつけたで、その方法のわけは～」「～をもとにして考えれば、計算の仕方ははっきりするね。」</p>	<p>○仲間の考え方の共通点を見つけ、課題に対する大切な考え方やあまりに気付かなかったりして、～さんの説明を聞いてよくわかったよ。」「どの考え方も～をもとにして考えているんですね。」「～をもとにして考えたことは、計算の仕方ははっきりするね。」</p>	<p>○仲間の考え方比べたり、既習内容どうなげで考え方たり、発展的に考え方たりするなどして大切な考え方やあまりに見付けていく。 「みんなの考え方には何が見えるのは」「～についてもう少し詳しく話してください。」 ○仲間の考え方より深く説明したり、違う視点で説明したりする。 「もう少し詳しく説明すると…」「式のこの部分は、何で使うと…」「○○の考え方、問題解決すると…」</p>
まとめる	課題に対して大切な考え方をまとめ、活用したり、説明を振り返りたりすることができる。	<p>○今日の学習で分かったことを話したり、書いたりする。 ○自分のがんばりや友だちの学び方のよさをよさを振り返り語る。</p>	<p>○今日の学習で分かったことを板書の言葉を使いながらノートにまとめる。 ○自分のがんばりや友だちの学び方のよさを振り返り語る。</p>	<p>○今日の学習で分かったことをキーワードを使いながらノートにまとめる。 ○仲間の考え方から学んだことや学習姿勢を振り返る。</p>

国語の授業の交流における授業改善

～交流における話し合いの場の在り方について～

根本小学校 今井 英津子

1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・ 全体交流における話し合いの場の在り方

2 具体的な実践

(1) ペアと話す中で自分の考えを持つ

単元や1時間の初めの段階で使うと効果的である。

特に自分の考えをノートに書くことはせず、自分が手がかりにした言葉とその言葉から考えた内容をペアの子に話す中で自分の考えをはっきりさせるようにする。

具体的には、物語文章などで登場人物の気持ちや様子などをとらえる中で、自分の考えを話すことに抵抗のある児童や自分の考えに自信をもつことができない児童や書くことに抵抗を感じる児童に対して、自分の考えを持つことや発表することに抵抗をなくすために行った。

この活動後、挙手をするのに抵抗感を抱いている児童が自信をもって挙手をし、大きな声で発表することができた。

(2) 書いた考えをペアに伝える

単元の中盤や1時間の中で目当て(課題)に迫る発問のときに使うと効果的である。特に、全員に考えを持たせたいと考える時。

自分が手がかりにした言葉とその言

葉から考えた内容をノートに書き、その内容をペアの子に伝え、どのように考えたかを確認する。

具体的には、物語文章でこの人物のこの場面の気持ちを考えるというように、ある程度考える内容を焦点化し、ノートに自分の考えを書く時間を確保し、その後ノートに書いた考えをペアの相手に伝えることで、自分の考えに自信をもつて発表したり、友達とは違う考えを聞く中で考えを広げたりする。

この活動後、友達の考えを聞いた中で、自分と違う内容を見つけ、「そういう考えもあるんだね。」と考えを広げることができた。

(3) グループで話し合いをする

単元の終盤や主題または全員に考えを持たせたいが、なかなか全員が同じように考えることが難しいと判断をしたときに効果的である。

全体交流の中である課題についてグループで話し合いを行う場を設ける。

具体的には、全体交流の中で話し合いを行いたい内容を焦点化し、その内容についてノートに考えを書くのではなく、グループで話し合いをする中で考えを持つようとする。

その話し合いの中で、考え方を持つ子、自信を持って発表しようとする子、何とか自分の考えを話す子など、いろいろな段階の児童がいる中で、少なくとも一回

は焦点化された課題について話すこと
ができる。

この活動後、焦点化した課題について
考えを持つことが苦手な児童も、積極的
に挙手をして発表することができた。

3 実践を振り返って考え方されること

全体交流における話し合いの場の在り方については、いろいろな段階の児童に対応するために抵抗感を取り除くようしていくことが大切であると考える。また、小集団にすることによって、話すことに抵抗を感じている児童も話し合いに参加することができる。聞くことには抵抗を感じている児童も近距離で少人数の話を理解することができた。また、話し合いの持ち方にも抵抗感を取り除くよう段階を設けたことでどの子も積極的に話し合いに参加できるようになったことに価値がある。

理科の授業の生徒交流における授業改善

～生徒交流を通して自分の考えをもたせる指導～

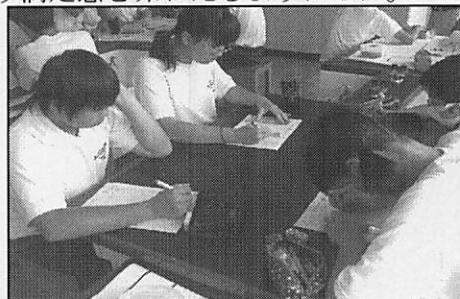
小泉中学校 理科 矢野隆彦教諭

1 授業改善の視点

ふかめるⅡ「場の設定及び多くの生徒の発言」に関わって

- ・ 全体交流における、生徒に考え方を持たせ、発言を促す指導の在り方

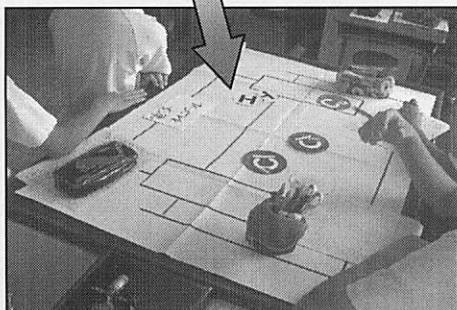
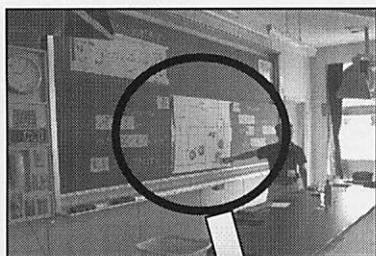
の力で仲間に伝えることができたという満足感を味わえるようにした。



2 具体的な実践

(1) 教材・教具の工夫

授業で提示する資料と同じ大きさのイオンモデルを各班に準備し、グループ交流の教具として活用した。

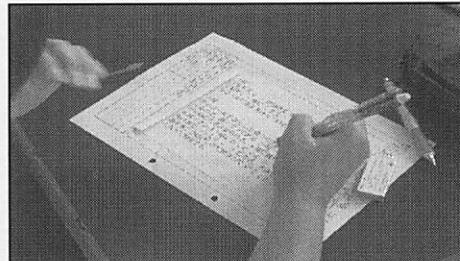


机全体を使ってモデルを操作できるような交流の場を設定することで、仲間の考え方をグループ全体で共有し、思考を深めることができた。

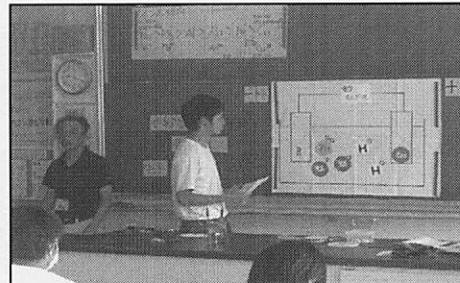
グループについては、生徒1人1人の技能を分析し、理科の学習を行う専用の班を編制した。グループのリーダーには、考え方を話したり、説明したりする活動が苦手な生徒を支援する役割を与え、自分

(2) 自分の考え方をもたせる工夫

単位時間の終末に向けてまとめを行う際に、うまく書けない生徒にヒントカードを渡し、電子を生み出す様子を説明できるようにした。



グループ交流では、学習内容の確認のため、1人1回説明し、全体交流では代表者や代表グループに説明させた。



3 実践を振り返って考えられること

生徒同士の学び合いを充実させるための教具を活用したり、自分の考え方を説明する機会を経験させたりすることは、生徒の思考を深め、話す力の向上に有効的であると考えられる。

「わからうとして聞く」「伝わるように話す」生徒の育成

笠原中学校 研究推進委員長 片山竜美

1 授業改善の視点

本校生徒の授業における意見交流、「学び合い」の実態として以下の2点があった。

- ・発表者は、大きな声で話せない。
- ・聞く側は、仲間の話す内容を理解せずに聞き流しがちである。

学び合う授業といいつつも、意見の交流による学習内容の深まりがなかなか見られなかつた。そこで、次の2つの取り組みを行つた。

2 具体的な実践

(1) 話し方名人、聞き方名人ステップ表の作成

ほとんどの生徒が卒業してきた笠原小学校では、「聞き方名人」「話し方名人」と称して、話し方がレベルアップできるよう、段階を踏んだステップ表が全教室に掲示してあつた。その内容を踏襲して、中学生向けに改良したものを作成し、これを全教室に掲示した。

<聞き方名人>

- 6 疑問点や新たな考えがもてるよう
- 5 自分の考えと比べて
- 4 認め、反応しながら（うなずく・拍手）
- 3 最後までしっかりと
- 2 話す人や提示される資料をみて
- 1 作業をやめて集中して

<話し方名人>

- 6 順序立てて、筋道立てて説得力の話し方で
- 5 仲間の考えとつなげたり、比べたり、まとめたりして
- 4 最後まではっきりと
- 3 仲間に聞こえる声の大きさで
- 2 仲間の方を見て
- 1 ひじを伸ばし、返事は「はい」と気持ちよく

このステップ表を使い、よりよい聞く姿勢、よりよい話す姿勢の具体的なイメージを生徒に持たせた。

そしてこのステップ表に合わせて、全教師が徹して指導していくことを共通理解した。その際、目指す姿が教師にも、生徒にもわかりやすいように目指す聞く姿勢は「わからうとして聞く」、目指す話す姿勢は「伝わるように話す」とした。

(2) 学習委員会による取り組み

本校では、生徒の基本的学習習慣を身につけさせるために「授業評価5A活動」を行つてゐる。身につけさせたい学習習慣を「5」項目定め、それをクラスの生徒全員が達成できたら、「1点」となり、5項目すべて達成できれば「5点」となる。

そして、その日の授業のめあてを教科リーダーと教科担任が考えて示し、その達成度を「A・B・C」の3段階で評価した。

この「授業評価5A活動」の推進を学習委員会の活動の大きな柱として位置づけた。

<授業評価5A活動 後期評価基準>

① 2分前活動

用具の準備と静かに全員が着席している

② あいさつ

1つ1つの動作にメリハリを挨拶

③ 聞く姿勢

認め、反応しながらわからうとして聞く

④ 挙手発言

学級の2／3が挙手できる

⑤ 話す姿勢

最後まで仲間に伝わるように話す

3 実践を振り返って考えられること

教師と生徒の両面からの取り組みによって、明らかに発言する生徒の声は大きくなり、仲間の話を聞こうと必死で耳を傾けようとする生徒が増えてきた。さらに、少しずつではあるが、質問したり、「もう一度言ってください」と反応したりする姿が出始めてきた。

授業への集中度が高まり、授業の内容が理解できることは、学力の向上につながつてきている。

本年度は、段階を踏んで指導にあたってきたが、来年度は、最初からが安定してレベル4以上が保てるよう指導をし、夏休み以降には、どのクラスでもレベル5・6ができるように取り組んでいきたい。

社会の授業の学び合いにおける授業改善

～目的を持たせた仲間との学び合いの工夫～

南姫中学校 社会科 市川 智英

1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- 仲間との交流、言語活動の充実

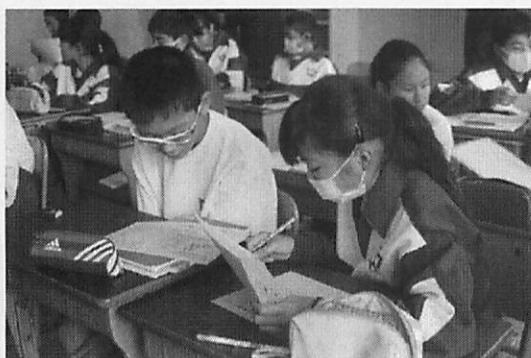
2 具体的な実践

(1) 仲間との交流の目的を明確にする。

- ①個人追究をしたが、意見がまとまらない生徒
→相手の意見を聞きながら、自分の意見をまとめる。
- ②個人追究をして、意見がまとまっている生徒
→どう説明すると、相手により伝わるかを考え、工夫しながら伝える。

「仲間から学ぶ」「自分の理解を深める」とことと、言語活動の充実、仲間との学び合いという観点から、社会科の個人での追究を行ったあとに、自分の気づいたことを伝える活動として、ペアでの意見交流を位置づけることとした。このペア学習は周りの仲間と交流するにあたり、自分の状態に合わせて上のような目的を意識して学習することとした。

この学習の結果、生徒の中で、資料のどこから気づいたのかを示しながら話す姿や、相手の反応を見ながら交流する姿が増えた。



(2) 根拠を視覚化して示しながら行う交流の工夫

全体交流を行う場では、「資料○の□□から…ということがわかって、だから△△だと思います。」のように、基本的な話し方の指導を行ったが、聞き取りに苦手を感じている生徒もあり、資料をどう読み取ったのかの交流がうまくいっていなかった。そこで、生徒が個人追究で用いる一枚資料を黒板に拡大したものを貼り、生徒がマジックで書き込みながら意見を述べる全体交流を行うように工夫を行った。

この学習の後、授業の振り返りの中で、生徒からは、以下のような意見が挙げられるようになった。

- ・どうやって資料を読み取ればいいのかが、少しわかるようになってきた。
- ・資料のどこを見ればいいのかが見えるから、仲間が何を言っているのかがわかりやすくなった。
- ・こうやって説明するとわかりやすくなるということがわかつってきた。

3 実践を振り返って考えられること

仲間とのペア学習に意味をもたせる工夫や、根拠を視覚化して交流を行う工夫は、個人追究のスキルアップや仲間からの学びを深めることを目的にしてきたが、それらと共に、相手に伝えることの工夫をすることにもつながり、「相手意識」を高めることにもつながった。この相手意識が、話す・聞くの基本姿勢をさらに強化することにもつながった。